

2004年度 修士論文要旨

メキシコのマキラドーラにおける労働者の賃金格差拡大のメカニズムについて Mechanism of wage inequality in Mexican Maquiladoras

海津太郎 (B0362004)

経済のグローバル化や市場経済化が、先進国・発展途上国を問わず、労働者にどのような影響を及ぼすのか、という問題は大きなテーマとなっている。例えば、国内の賃金格差の拡大についての研究をみると、先進国に関する研究が大半であり、ここでは「産業内の技術変化によって、労働者に求められる技術レベルが変化したこと」、「多国籍企業による世界規模の生産戦略によって国内の産業構成が変化したこと」などが指摘されている。しかし、このような先進国の研究と比べ、途上国における労働者の賃金格差拡大の要因を扱った研究は少ない。

このようなことから、本論では途上国における労働者の賃金格差拡大のメカニズムを調べることを目的とし、事例としてメキシコのマキラドーラを取り上げる。マキラドーラでは、1980年代以降、熟練労働者と非熟練労働者の賃金格差が拡大しており、途上国の賃金格差拡大のメカニズムを扱った研究の事例として分析されている。ここでは、先進国から途上国への海外直接投資が、熟練労働者の需要を高め、賃金格差が拡大すると指摘されている。本論では、途上国における労働者の賃金格差拡大の要因を、「海外直接投資」だけではなく、先進国の要因として指摘されている「産業内での技術変化」や「産業構成の変化」による、労働者に求められる技術レベルの変化も関係があるのではないかと考え、分析を行った。

分析によって、マキラドーラの労働者に求められる技術レベルは、先進国における要因と同様、次のように変化していることがわかった。第1に、産業構成の変化によるものである。1980年代は、低い技術レベルで行える繊維・衣服産業の停滞とは対照的に、ある程度高い技術レベルが求められる輸送機械産業と電機電子産業の全マキラドーラに占める割合が大きくなった。第2に、産業内で用いられる技術が変化したことである。マキラドーラの主要産業となった輸送機械産業と電機電子産業は、製品のライフサイクルが早いと、技術変化も早い。従って、労働者に対してより高い技術レベルを求められるようになった。

輸送機械産業と電機電子産業の成長は、熟練労働者と非熟練労働者の技術レベルの格差をますます拡大させる要因となっている。これらの産業で非熟練労働者の需要が高まる理由は、機械を導入することによって、作業内容がより単純化・標準化することが可能になったからである。そして労働者が持っている技術レベルに応じて、熟練労働者は高い賃金を得て、非熟練労働者は低い賃金を得ることになり、結果として労働者の賃金格差が拡大していったと考えられる。